

市内のホテルが連携し、 たくさんの人を引きつける 魅力あるまちづくりに 貢献してまいります。

仙台ホテル総支配人協議会 会長
仙台ターミナルビル株式会社
専務取締役 ホテル事業本部長
ホテルメトロポリタン仙台総支配人

こんの じゅんいち
紺野 純一 氏

プロフィール

昭和25年3月22日生まれ。福島市出身。血液型O型。
高校卒業後、昭和43年旧日本国有鉄道(現JRグループ)入社。福島駅勤務を皮切りに、車掌・仙台鉄道管理局営業職を経て、民営化後の東日本旅客鉄道株式会社ではびゅうプラザ仙台所長、福島駅長、仙台駅長などを歴任。この間、旅行商品の企画や、山形・福島デスティネーションキャンペーンなどに携わる。平成19年より仙台ターミナルビル株勤務。仙台ホテル総支配人協議会の発足に伴い会長に就任。現在に至る。



ホテル実務責任者の 情報交換の場として

「仙台ホテル総支配人協議会」発足の経緯と趣旨を教えてください。

市内ホテルの実務責任者が情報交換できる場を持つという話が持ち上がったのは、東日本大震災発生後、半年が過ぎたころでした。市内ホテルが連携を深めることで業界全体を発展させていくこと、社会インフラの一つでもあるホテルが、業界として地域活性化に取り組んでいくことの必要性を感じていたのです。その後、さまざまな調整を経て、平成24年5月8日に協議会が発足しました。

協議会の趣旨として、一つは、「まちの顔」でもあるホテルが協力して、一丸となって東日本大震災からの復旧・復興に立ち向かおうということです。また、そうしてまちの魅力を高めることで仙台そして宮城を訪れる観光客を増やし、地域を元気にしようという思いもあります。

二つ目は、マーケティングの変化に対応できる態勢を整えることです。協議会発足の話が出た当時、震災の復旧・復興関係の方々で市内のホテルは満室状態にありましたが、国内観光需要や海外からのお客さまは激減していました。こうした、業界全体、時には個々のホテルが抱える現状の課題を解消していく上で、各ホテルが情報交換できる態勢をつくっていく必要があるのです。

三つ目は、震災を契機に再認識させられた人と人との絆を大切にしていこうということです。シティーホテルが絆を結ぶ場としてご提供できるサービスには、一般的に「会議」「宴会」「婚礼」があります。特に最近は、結婚式や披露宴が簡素化される傾向にありますが、「結婚」という節目で、お世話になった方々をお招きして、たくさんの「絆」に感謝するということはとても大切なことだと思います。協議会では、こうした地域の良き伝統のスタイルの継承にも力を入れていきたいと考えています。

各ホテルが特徴ある おもてなしで歓迎

「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン(DC)」での取り組み、また意気込みをお聞かせください。

まず、仙台の観光はとも協力体制ができてきていると感じます。先日、仙台商工会議所主催で開催されたDCに向けた総決起大会には、観光関係者以外からもたくさんの方々が参加されていましたし、仙台では、他にも他地域に比べて先進的な取り組みが多く行われています。

当協議会でも、今回のDCに向けて、JR東日本、JTB各社と協力し、オリジナルの旅行商品をご用意しました。また、各ホテルでも趣向を凝らしたさまざまなプランの準備が進められて



紺野会長（右から4人目）は、「協議会には全国チェーンのホテルも加盟しており、情報発信力の強化にも期待できる。人の行き来を増やして地域を元気にしていきたい」と話している。

います。ホテルメトロポリタン仙台の例を挙げますと、前回からバージョンアップした「むすび丸」のキーキやオリジナルカクテルを用意しているほか、アルバイトスタッフを含む全従業員参加で研修会を行い、仙台の見所から街を訪れるお客さまにいろいろな角度からまちの魅力を提案できるような万全の準備を整えています。

仙台駅は新幹線をはじめ、仙台空港を結ぶアクセス鉄道、高速バスなどの起点となる交通の結節点であり、東北のゲートウェイです。そこに位置する仙台のホテルは、まさに「まちの顔」としての役割を担っていると思います。都市観光は言うまでもなく、被災地である沿岸部へのツアーや世界遺産の中尊寺がある岩手県平泉など、県内そして東北各地を巡る旅の拠点にふさわしいホテルづくりをしていくため、今後

は、秋保や松島の旅館の方々との連携も必要になるのではないかと考えているところです。

行政や各機関とも連携 大型コンベンションに対応

― 協議会として、取り組んでいる課題にはどのようなものがありますか。

先日、協議会の会合で市のコンベンション推進室の方々との意見交換をし、国際的な大型コンベンション開催時の宿泊から、ケータリング（パーティー開催時などの配膳サービス）の問題など、私たちが果たす役割は非常に大きいものがあると感じました。

この6月にはハワイアン航空によるホノルル線の就航が決定していますし、インバウンドの誘客にも力を入れていきたいと思っています。

そのため、各ホテルが切磋琢磨しながらサービスのクオリティを高め、県や市をはじめ、仙台観光コンベンション協会、東北観光推進機構など関係機関と連携しながら、戦略的に東北のゲートウェイにふさわしい環境を整備していきたいです。仙台市が力を入れて大型コンベンション誘致へも協力していきたいと考えています。

― 今後の抱負をお聞かせください。
仙台のように四季を通じて全国に誇れるお祭りやイベントが開催されている都市は、他にはないのではないのでしょうか。また、「食」というのもキ

ワードになると思います。それぞれのホテルが得意分野を生かしつつ、アレンジを加えながら、全国、そして世界へと発信し、インバウンド需要や大型コンベンションに対応していかなければいけません。そのために、市内のホテルが魅力ある連携をすることが非常に大切だと思っています。

例えば東京をはじめ、たくさんの方が訪れる都市には魅力的なホテルが林立しています。どのホテルもサービスのレベルが高く、どこに宿泊しようか迷うのも観光客の楽しみであり、また訪れたくなる魅力の一つになっているのは、皆さんがご存じの通りです。これは私たち協議会が描く理想のカタチでもあります。今後も選択肢がたくさんある仙台のホテル群になることを目指し、メンバー14のホテルで切磋琢磨してまいりたいと思います。

【概要】

仙台ホテル総支配人協議会

設立：平成24年5月

代表者：会長 紺野純一

事業内容：仙台市内の主なホテルが情報交換をしながら、業界発展や地域のため協力関係を構築し、官公庁や関係諸機関と連携し、新しい需要の創出や地域の活性化に取り組むことを目的とする。

加盟ホテル：14ホテル（オブザーバー 1ホテル含む）

事務局：宮城県仙台市青葉区中央一丁目一番一号

ホテルメトロポリタン仙台 総支配人室

TEL. 022-267-2182 FAX. 022-267-2156



『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全
本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)